

## 障害児に係わり合う真のプロになるためにも...

障害児教育を目指す学生への1年間の授業を終えた。この大学に通う内に、特に次の2点が気になった。

教室の黒板の片隅に、隣接の養護学校の生徒が「 月 日 私たちが黒板を掃除しました。」と、生徒の何人かの自筆の名前入りの張り紙があり、時々黒板は綺麗に掃除されていた。

障害児に係わる教師を目指す学生が、業者ではなく、養護学校の生徒が黒板を掃除するというその張り紙を眺めて、何も感じないのだろうか？

自分が養護学校の教師になったら生徒に、「大学のお兄さん、お姉さんたちが黒板を掃除しないから、作業学習だから掃除に行こうね。」とでも話すつもりなのかなぁ～。

構内はバリアフリー化されている。しかし、道路から校舎入り口までのスロップはあるが、スロップから廊下へのドア部分の段差が5cm程(どうしてこんな中途半端な改修をしたのかなぁ)。そのドアもがたついて両手の力でようやく開閉できる。車いすに乗ってこのドアの開閉はとても無理。

障害のある学生が、わざわざ別の出入り口に遠回りしなくてはならないということに、大学側も学生も気づかず、また、何も感じないのだろうか？さし当たって車いす使用の学生がいらないから、「まあ、いいや」ということか。そうではなく、社会のあり方の疑問点、矛盾点に敏感であり、問題提起するのが、大学生ではなかったのか.....。

将来、障害児に係わるであろうプロを養成する大学だけに、こうした現状を目にして少なからずがっかり...

身近な問題から、具体的に障害を理解し、思考、行動する姿勢を学ばせずして、また、気づいて行動しないで、果たして卒業後、教壇に立ったからといって、がらっと直ぐに、何が障害かを理解し、寄り添い、行動する教師になれるものであろうか。

授業でこれらのことを時間を割いて学生に問いかけたし、また、大学側にも意は伝えましたが、さて.....。

障害児と係わり合うプロを目指す学生には、何よりも障害の周辺の問題には、敏感な感性、思考力・行動力を大学で養って欲しいと願う。